

飼料情勢

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には380セント／ブッシェル前後で推移していたが、南米産の豊作見通しと現地通貨安により輸出競争力が高まり、米国産の輸出が低調となったことから弱含みな展開が続き、現在は360セント／ブッシェル前後で推移している。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、12月には310ドル／トン前後で推移していたが、南米産大豆の豊作見通しから弱含みの展開が続き、現在は290ドル／トン台で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には30ドル／トン前後で推移していたが、中国むけ石炭の輸送需要が低調になったこと、燃料価格が下落したことなどから軟調な展開となり、現在は25ドル／トン前後で推移している。
4. 外国為替は、12月には120円を超える水準で推移していたが、1月に入り、中国経済の減速や原油価格の下落による産油国の財政悪化など世界経済の不透明感に対するリスク回避の動きから117円台まで円高がすすんだ。その後、1月29日に日銀がマイナス金利の導入を決定すると反転し、一時121円台まで円安となったものの、米国経済の減速懸念により利上げが先送りされる見通しとなったこと、世界的な株安などから急速に円高がすすみ、現在は113円前後となっている。

